

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	ビジネス実務Ⅳ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 66 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	子ども福祉に携わる者として必要な専門知識はもとより、社会人として基本的な社会常識や語彙・読解力、ビジネスマナー、コミュニケーション能力が必要となってくる。これまでビジネス実務Ⅰ・Ⅱで培ってきた以上の知識を習得することを目的とし、より実践的な授業を行う。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	上記の目的が達成できるように講義と共に一般常識等の確認テストや社会人になるための動機づけ、やりがいなどを具体的に学生に伝えていき、社会人として常識のある人材になれるようにする。意図やねらいを汲み取り、グループワークや全体場で発言できるようになる。		
そ の 他	就職活動に必要な情報も盛り込む。		
	前 期		
授 業 の 概 要	・ 1 年次、2 年次で学んだ一般常識、マナーの知識を活かし、さらなる上を目指す。 また、文章の読み書きに必要な語彙・読解力検定の演習を繰り返し行うことで「ことば」の力を強化し、就職活動そして社会へ活かす。社会人としての心構えを身につける。		
到 達 目 標	・ 相手の立場、自分の立場を考えた敬語の使い方が分かる。 ・ 間違いやすい同音異義語や熟語の読み書き、意味の理解ができる。 ・ 立ち居振る舞い、言葉遣い等、見られている意識をもった行動ができる。		
成 績 評 価 方 法	・ 筆記試験 70% ・ 提出物 25% ・ 出欠 5%		
テキスト・副読本	社会人常識マナー検定 2・3 級 これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉 第二版 わかば社 これだけは知っておきたい保育の基本養護 第二版 わかば社		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科3 年		
科 目 名	子育て支援	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	中原 崇
時 間 数	15 時間	実務経験：社会福祉士・精神保健福祉士・保育士の国家資格を持ち、これまで児童・家庭福祉、教育の領域で活動していた経験から、学生に専門職としての支援の在り方を講義する。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの支援について、支援の内容と方法および技術を、実践事例を通して具体的に理解する。 また、児童養護施設をはじめとした「児童福祉」の観点から実習経験をもとに振り返り実践に生かすことができる。		
目指す検定・資格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	体験的な学びを振り返りながら実践事例などを学び、その方法や手段、関連施設の実践について学ぶ。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	DVD や資料も用いながら授業を実施。 ①「事例」を通して子育て支援・社会福祉援助活動（社会福祉援助技術）の実際 ②「社会福祉」と「相談援助」を学んでいく過程で理解できないこと		
到 達 目 標	この科目は、将来において保育士を目指す受講生にとって必要とされる子育て支援・相談援助活動（社会福祉援助技術）の基礎を習得し、援助展開における援助関係形成、援助過程や各技術を効果的に活用するための理論と方法を身に付けることを目標とする。		
成 績 評 価 方 法	単位修了試験結果 レポート課題 面接授業への積極的参加		
テキスト・副読本	講師により、随時資料の配布。 演習・保育と相談援助		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	子どもの健康と安全	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 記	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	大倉 章彦
時 間 数	15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	身近なケガや疾患、事故に対して適切な応急処置に対応できる技能を習得する。 子どもの保健と安全について理解を深め、それぞれの対応について体験的に学び、実践できる。		
目指す検定・資格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	子どもの保健と安全について理解する。 体験的な学びを通して、実践することができる。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	グループワーク、グループ討議を行い、学生同士でモデル人形を使用し、身近な疾患、ケガ、事故に対処できるように講義を進める。 子どもの保健で得た知識や技能を体験的により理解できるよう、実践事例を挙げたり実践をしたりすることで、柔軟な対応や応急処置ができるよう講義を実施する。 身近な応急処置や対応については、可能な限り体得させ、現場においての即戦力となれるように実施する。		
到 達 目 標	身近なケガや疾患、事故に対して適切な応急処置及び救急処置に対応できる技能を習得する。		
成 績 評 価 方 法	講義終了後の課題レポート 受講態度 実技・筆記による判定		
テキスト・副読本	講師より、随時資料の配布を行う。		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	青年心理学	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 30 時間 / 後期： 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	自己を意識し、自己を知ること、現在の自分、過去、未来の自分について考え自己形成を行う。また、青年心理学を学び対人関係について考え、現場で生かすことができるようにする。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	自我の確立とともに他者の気持ちを考えることができるようになってほしい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	乳幼児期から発達段階を学び、青年期を知ること、子どもの将来をイメージできるようにする。また、青年期を学ぶことで、自分たちの今を知り、今後の自分に生かすことができるようにする。		
到 達 目 標	アイデンティティの確立を理解する。また、他者理解を行う。 青年期にかかわる子どもたちの内面を理解し、その支援に活用できる。		
成 績 評 価 方 法	前期試験（70%） 確認テスト（5%） 提出物、レポート（20%） 出席率（5%）		
テキスト・副読本	よくわかる青年心理学 ミネルヴァ書房 授業単元ごとに別紙資料を教師から配布		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育・教職実践演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 時間 / 後期：15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育士、幼稚園教諭として必要な専門知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが習得されたかを、履修カルテの作成を通し、自らの学びを振り返り把握する。さらに自己課題を明確にし、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	履修カルテの作成、グループワーク、グループ討議、プレゼンテーションなどの授業方法を活用するので、積極的な参加を期待する。		
そ の 他			
	後 期		
授 業 の 概 要	今までの学習と実習の成果を振り返りながら、保育士・幼稚園教諭に求められる資質と能力を確認する。 学生自身が必要に応じて自己の資質と能力の向上に努めることができるよう、発表・議論・ディスカッション・プレゼンテーションなどを行う。		
到 達 目 標	保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技術の中で、自己課題を把握する。その上で、目指す保育者像や今後の取り組むべきことの内容と具体的方法などを具体化する。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（プレゼンテーション）60% 提出課題 35% 出欠席 5%		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	履修カルテ 保育・教職実践演習（ミネルヴァ書房） 保育・教職実践演習 保育者に求められる保育実践力（建帛社）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育・教職実践演習（スクーリング）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期 7 時間・後期 8 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育士、幼稚園教諭として必要な専門知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観などが習得されたかを、履修カルテの作成を通し、自らの学びを振り返り把握する。さらに自己課題を明確にし、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力を定着させる。		
目指す検定・資格	なし		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	履修カルテの作成、グループワーク、グループ討議、プレゼンテーションなどの授業方法を活用するので、積極的な参加を期待する。		
そ の 他			
	通 年		
授 業 の 概 要	履修カルテをもとに、前期の教育実習の振り返り及び課題の明確化。 働くことの意味（協働）について学ぶ。 現代社会の中で子どもを取り巻く環境について課題を学ぶ。 全実習を終え、振り返り及び履修カルテの作成を通して自分の課題と社会の課題を見出す。また、それについて提案する。		
到 達 目 標	保育士・幼稚園教諭として必要な知識・技術の中で、自己課題を把握する。 グループ発表をする。 目指す保育者像や今後の取り組むべきことの内容と具体的方法などを具体化する。		
成 績 評 価 方 法	発表・課題・授業態度 95% 出欠席 5%		
テキスト・副読本	履修カルテ 保育・教職実践演習（ミネルヴァ書房） 保育・教職実践演習 保育者に求められる保育実践力（建帛社） 事前課題を持参する		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育者論	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美 高月 香帆里
時 間 数	前期：15 時間 後期：15 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、具体的な事例も交え、より実践的な理解を図る。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	子どもの心を育てる保育士として保育士自身の人間力を育てることを目的とする。 ・様々な人の保育観、教育観、子ども観、福祉観を学ぶことを通して自分の『考え』をもつ。 ・実際の保育現場での諸問題について学び、自分自身の果たす役割について考える。 ・働く意味、協働とは何かを考え、自分自身の将来を導きだす。保育者としての思考の習慣をもつ。		
目指す検定・資格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	・講義や学生同士のディスカッション、グループワーク等を通して、自分の考え方の振り返り、見直しを図り自己向上力をつける。 ・様々な角度から物事を見ること、考えることに主体的に当事者意識を持って参画する。		
そ の 他			
	前期	後期	
授 業 の 概 要	・福祉に携わり「働く」とは ・社会の一員としての職場の「組織」・「チーム」のとらえ方 ・「先生」とよばれることに対しての自己意識 ・子どもの心を育てる保育士として自身の心の持ち方 ・子ども権利について再確認 ・求められる資質、能力について考える	・「子どもの心を育てる保育とは」実践事例から実技演習を行う。 (保育の展開、発展から子どもの心を読み取っていく) ・自分なりの保育観をもち、提案、ワークに参加できる。	
到 達 目 標	・人としての基本的な考え方、マナーを理解し社会人としての知識や意識を持つ。 ・他者の考え方に触れる経験を通して自分の意見や考えを主体的にもつ。	・実践演習を通して「子どもの心を読み取る」読み取り方を理解する。 ・自分なりの保育観、教育観、福祉観をもち表現できる。	
成 績 評 価 方 法	試験 80%、提出物 15%、出欠 5%	試験 80%、提出物 15%、出欠 5%	
テキスト・副読本	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領 保育者論 ミネルヴァ書房		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科 3 年		
科 目 名	教育実習（後期）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	90 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	幼稚園の教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	幼稚園教諭二種免許		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	幼稚園での一日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 部分実習または全日実習の指導計画を立案することができる。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら、実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために第2回（2週間）の実習では、指導実習を主とする実習を行うこととする。		
到 達 目 標	・ 幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 ・ 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 ・ 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。 ・ 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。		
成 績 評 価 方 法	1. 実習日誌の記述内容（50%）：①「観察記録」の記述内容、②「本日の実習についての反省・感想・今後の課題など」の記述内容 2. 指導計画の記述内容（30%）：①「朝の会」「絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びや音楽の弾き歌いなどの短時間で行える活動」「昼食指導」「帰りの会」の部分実習、②「午前の主な活動」「午後の主な活動」の部分実習 3. 実習園による評価（20%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	テキスト：「教育実習事前事後指導」 参考文献：内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領幼稚園教育要領・保育所保育指針（H29年告示）』チャイルド本社 林幸範・石橋裕子編著「保育園・幼稚園の実習完全マニュアル」成美堂出版 東山明・名賀三希子著「教育・保育実習実技ガイド」ひかりのくに 片山紀子編著「保育実習・教育実習の設定保育」朱鷺書房		

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科3 年		
科 目 名	保育実習Ⅰ（施設）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	伊丹 稔博
時 間 数	前期： 90 時間 / 後期： 時間	実務経験：介護施設、障がい者施設にて、直接介護、サービス管理提供責任者としての経験を活かし、施設保育士、施設実習についての講義を行う。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	施設実習を通して出会う人々と直接かかわりながら、理論・知識・技術を実践に応用し、援助の理論と実践に関して理解を深め、発展させていく。 施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようにつながるのかを知る。		
目指す検定・資格	保育士		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	実践を通して、保育の技術・能力を向上させる。 自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	「保育実習Ⅰ」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設（保育所以外）で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ 10 日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。 ①施設における 1 日の流れを知る ②子どもや障害者への理解を深める ③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ ⑤保育士を志すものとして自覚を高める		
到 達 目 標	・施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。 ・実践を通じて、保育の技術、能力を向上させる。 ・自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。		
成 績 評 価 方 法	①実習日誌・事後レポートなどの提出物 ②実習施設の評価 ③勤務状況等		
テキスト・副読本	テキスト：石橋裕子他編『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド 第2版』同文書院 2020 年 参考文献：『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他 同文書院 2017 年 『幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド 第2版』太田光洋編著 ミネルヴァ書房 2015 年 その他、書店で指導計画作成書や、教材研究に関する書物を探して活用すること。 施設実習の手引き（岡山県保育士養成協議会）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育実習Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	90 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉施設で行う実習である。 10 日間の実習で体験的な学びをする。 保育現場での保育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのようなにつながるか理解する。 保育実習Ⅰの反省を踏まえ、保育の実践を体験し、保育技術の体得・向上、自分なりの保育観の確立を目指す。		
目指す検定・資格	保育士		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	実践を通して、保育の技術・能力を向上させる。 自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。 保育実習Ⅰの反省を踏まえて、さらなる実践力の向上をする。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	「保育実習Ⅱ」では、前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。 「保育実習Ⅱ」を履修するためには、「保育実習参加資格」の条件を満たさなければならない。また、「保育実習Ⅰ」を終えておかなければならない。		
到 達 目 標	・「保育実習Ⅰ」を通して学んだ技術と理論を基礎として、保育士として必要な資質、能力、技術を向上させる。 ・子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力を養うことができる。		
成 績 評 価 方 法	①実習日誌事後レポートなどの提出物 ②実習園の評価 ③勤務状況等		
テキスト・副読本	参考文献：『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他 同文書院 『幼稚園教育要領・保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29 年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 『保育所保育指針解説書（H30 年 3 月）』厚生労働省 フレーベル館 その他、書店で指導計画作成書や、教材研究に関する書物を探して活用すること。 保育実習の手引き（岡山県保育士養成協議会）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科			3 年
科 目 名	保育実習事前事後指導 I (施設)	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目	
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	伊丹 稔博	
時 間 数	前期： 15 時間 / 後期： 時間	実務経験：大学卒業後、介護施設、障がい者施設にて、直接介護、サービス管理提供責任者としての経験を活かし、施設実習での心構え、記録の方法について講義を行う		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。			
目指す検定・資格	保育士資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	各施設における、業務内容を把握し、さらに保育士が他職種とどのような役割分担や連携が行われているのかを理解する。又、個人情報の取り扱いについて理解できる。			
そ の 他				
	前 期			
授 業 の 概 要	保育実習（施設）の意義・目的を理解する。			
到 達 目 標	実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。			
成 績 評 価 方 法	提出課題（60%）、実習評価（40%）			
テキスト・副読本	施設実習の手引き（岡山県保育士養成協議会） 施設実習ガイド 保育士として成長するための事前事後学習（駒井 美智子） 施設実習パーフェクトガイド（守 巧）			

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育実習事前事後指導Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	15 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育実習Ⅰの反省を踏まえ、自己課題を明確にし、保育実習（保育）の既習している内容やその関連性について、保育実践力を培う。 保育実習（保育）の全体的な枠組みを再認識し、実習に挑む心構えを作る。 また、実習の自己評価や総括を行い、新たな課題の明確化を図る。		
目指す検定・資格	保育士		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	主体的に講義に参加し、知識や技術の習得はもちろん、実習に対する心構えをしっかりとする。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	「保育実習（保育所）」での自己評価と課題・今後の学習目標について再度確認する。それに基づき、具体的な内容を通して、実習計画作成、実践、日誌の記録など、より実践的な内容を学習する。さらに、「保育実習Ⅱ」に関する目的を明確にし、「保育実習Ⅱ」の終了後には、自己評価と保育士としての自己課題について考察する。		
到 達 目 標	・「保育実習事前事後指導」「保育実習（保育所）」、またその他の教科で学習した内容を基盤に、保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。 ・指導計画の作成や記録など保育の実践力を養う。 ・保育士としての自己の課題を明確化する。		
成 績 評 価 方 法	①授業への積極的参加 ②報告会の内容 ③「保育実習Ⅱ」にむけた各自の実習目標、課題、学習計画		
テキスト・副読本	参考文献：『幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド』石橋裕子他 同文書院 『幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（H29年告示）』内閣府・文部科学省・厚生労働省 チャイルド社 『保育所保育指針解説書（H30年3月）』厚生労働省 フレーベル館 保育実習の手引き（岡山県保育士養成協議会）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	教育実習指導Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期：7 時間 / 後期：13 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	前年度の教育実習で見つけた課題や反省を活かしながら教育者としての資質、知識、技術向上を図る。観察記録の作成や指導計画の立案方法をさらに深め、実践することで、活動に即した指導方法や言葉がけ等を身につける。また、教育実習後に振り返り、課題を明確にし、社会に向けてのスキル向上に努める。		
目 指 す 検 定 ・ 資 格	幼稚園教諭二種免許状		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	2 年次で行った教育実習を振り返り、見つけた課題や反省を活かし、考察しながら準備や心構えをしていく。実習で得た経験をより具体的に幼児理解や指導方法を深められることができるようにする。また、より現場に近い指導記録の作成や指導計画の立案ができるようにする。		
そ の 他			
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	・ 幼稚園の現場で利用できる題材を決め、必要性を理解し、作成する。それを踏まえての実技実践を行う。 ・ 前回の教育実習を踏まえ、反省や課題を明確にし、保育の立案を行い実践する。 ・ ねらいや内容理解を深め、より幼児教育において必要な指導方法を学ぶ。	・ 幅広い遊びや活動を深めて理解し、現場で行うスキルや指導方法を学ぶ。 ・ 実技を行い、現場で行える実践力を身に付ける。	
到 達 目 標	・ 課題や反省を活かし、人前ですることに慣れ、実技実践を行っていく。 ・ 発達段階を理解し、年齢に即した遊びや援助を考える。 ・ 遊びや活動をより多く立案し、遊びのレパートリーを増やし実践を行う。	・ 教育実習において年齢に合わせた立案、実践を行い、より現場で使える知識、スキルを身に付ける。 ・ 実践からの評価の観点を学ぶ。 ・ 学生最後の教育実習での振り返りから、反省考察を互いに共有し、現場に役立つ立案、情報を共有し発表する。	
成 績 評 価 方 法	課題提出（50％）模擬保育などの実技実践（45％）、出欠席（5％）で総合的に評価する。	指導計画の立案、提出（50％）模擬保育などの実技実践（45％）、出欠席（5％）で総合的に評価する。	
テ キ ス ト ・ 副 読 本	・ 幼稚園教育要領 文部科学省 ・ 教育実習の手引き	・ 幼稚園教育要領 文部科学省 ・ 教育実習の手引き	

令和 6 年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	プレゼンテーション技法	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	伊丹 稔博
時 間 数	前期：30 時間 / 後期：時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	実社会において必要なプレゼンテーション力を身に付けるための授業である。コミュニケーションが重視される社会において、人前で話すという行為は避けて通ることができない。この授業を通してプレゼンテーションの基本的な知識と技術を伝え、実践する機会を設けることでプレゼンテーション力を身に付けていく。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	設定されたテーマに関するプレゼンテーションを行うため、パワーポイント等の視覚資料の作成とパワーポイントでの発表の方法を身に付け、実際にクラスでプレゼンテーションを行う。クラス内で相互評価をし、改善する機会を設ける。学生には、わかりやすく相手に伝える技術を身に付けてほしい。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	プレゼンテーションの基礎的な知識と方法を学ぶ。その後、設定されたテーマに基づき、視覚資料を作成する。実際にクラス内で中間プレゼンテーションを行い、相互評価をし、最終発表を行う。		
到 達 目 標	設定されたテーマに基づき、パワーポイントやポスターやチラシなどを作成し、プレゼンテーションする。		
成 績 評 価 方 法	プレゼン発表、提出物（50%）、期末試験（45%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	プリント配布		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科3 年		
科 目 名	音楽Ⅲ（ピアノ）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	井上 美樹
時 間 数	前期：30 時間	実務経験：音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	音楽Ⅰ、Ⅱで学んだ表現法を発展させ、子どもの感性の発達に役立つ音楽的表現を身につける。 ピアノ伴奏及び弾き歌いの更なる技術向上を目指す。 コードネームを見て伴奏が弾けるよう、伴奏法も学ぶ。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	ピアノ実技は個人レッスンを行い、技術の向上を目指す。 幼児を前にしている想定で自信を持って演奏することを習慣づける。		
そ の 他			
授 業 の 概 要	これまでに取り組んできたレパートリーに加え、現場で使われる季節の歌、行事の歌、生活の歌、子どもが好きな歌のレパートリーを増やす。 コードネームを理解し、曲にふさわしい伴奏法を学ぶ。		
到 達 目 標	保育者・教育者として必要なピアノ技術、弾き歌い技術を習得する。 コードネームに慣れ、子どもの歌に寄り添った伴奏がつけられるようにする。		
成 績 評 価 方 法	確認テスト（65%） 期末テスト（20%） 授業態度（10%） 出席（5%）		
テキスト・副読本	「音楽（ピアノ教本）」「音楽（声楽教本）」近畿大学九州短期大学 「子どものうた 100」チャイルド本社 プリント		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科3 年		
科 目 名	音楽Ⅲ（器楽・声楽）	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 通年	担 当 教 員	井上 美樹
時 間 数	後期：30 時間	実務経験：音楽大卒業後 30 年以上、音楽教室講師として幼児から大人まで、ピアノ、電子オルガン、リトミック、音楽理論、幼児指導法等を教えている経験を活かし、保育の現場で役に立つ技術力と実践力を養う	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育現場で使用される楽器の演奏法、声楽の発声法、歌詞の理解等を学び、子どもの発達に応じたより高度な指導が出来るようにする。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	器楽、声楽の実技演習を通して、楽器の奏法や、発声法を学ぶ。 現場で使える様々なジャンルの曲を演奏する。 音楽の楽しさを子どもに伝えられるようになってほしい。		
そ の 他			
	後期		
授 業 の 概 要	子どもが園で使用する様々な楽器の演奏法を習得し、合奏する。 童謡、合奏曲、合唱曲にふれながら、曲に合った指導法を身につける。		
到 達 目 標	保育、教育現場で即座に使える器楽、声楽の技術を身につけ、子どもの音楽的発達に応じた指導ができるようにする。		
成 績 評 価 方 法	確認テスト（65%） 期末テスト（20%） 授業態度（10%） 出席（5%）		
テ キ ス ト ・ 副 読 本	「音楽（ピアノ教本）」「音楽（声楽教本）」近畿大学九州短期大学 「子どものうた 100」チャイルド本社 プリント		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育実技	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：15 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、より実践的な力を身につける。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	学んだ知識や保育実習・教育実習で培った現場力をベースに、保育・幼児教育の現場で必要なスキルにより一層磨きをかけ、保育・幼児教育の現場での即戦力となれるような技術力を身につけることを目標とする。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	現場で必要となるスキルを身につけるため、実技的な授業を行う。		
そ の 他			
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	・5月6月をグループ別に年齢設定をし、立案（指導案・教材作成）と実践（模擬保育）を行う。 ・簡単で子どもとできる遊びの提案、実践を行う。 ・素話の作成と発表を行う。 ・絵本ノートの作成、実演をする。	・連絡帳の役割を知り実践する。 ・園から出る「おたより」の役割を知り、保育実習、教育実習を踏まえてクラスだよりを作成する。 ・保育現場で実際に起こりうる保護者対応についてロールプレイングを行う。	
到 達 目 標	・あそびの指導計画を立案し、実践を行い、保育者の援助の視点を身につける。 ・保育実習、教育実習に向け、準備をしていくことで、実習で様々なことに挑戦できる姿勢を養う。 ・現場での必要なスキルとして、いつでも子どもにあそびを提供できるようにする。 ・素話を作り、実際に行うことで、言葉での表現力を身につける。	・連絡帳の役割を知りポイントを学んだうえで、保護者に対しどのような配慮が必要か、文章の伝わり方等考え、表現力、文章力を養う。 ・クラスだよりの作成ポイントを理解し、保育者の視点をもったクラスだよりを作成できるようにする。 ・保護者対応に対して、気を付けなければならないポイントを把握する。	
成 績 評 価 方 法	前期試験 実技 30%、課題 45% 素話 20%、出席 5%	後期試験 課題 45%、出席 5%、実技 50%	
テキスト・副読本	保育所・幼稚園完全マニュアル、子どもがこっちをむく言葉かけ	児童文化、保護者支援など	

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科 3 年		
科 目 名	卒業制作	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期：50 時間 / 後期：95 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	保育に関して学んできた知識や技術、実習で培った現場力の集大成として、1 つの舞台を全員で手掛け、子どもたちの前で発表する。保育・幼児教育の現場に必要なスキルにより一層磨きをかけ、即戦力となれるような技術力やコミュニケーション力、協調性を身につけることを目的とする。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	制作を進めるにあたって、計画や手順等に関して学生が主体となって進めていく。1 つの目標に向かってクラス一丸となって取り組んでいくため、一人一人が全体に目を向け、互いを思いやる言動や行動が必要となる。知識や技術だけではなく、社会人として仕事を進めていくうえで必要なチームワーク力を高めていきたい。		
そ の 他			
	前 期	後 期	
授 業 の 概 要	卒業制作を行う目的と意義を共有し、公演場所、公演日時、発表題材、役割担当、スケジュール作成、配役決めをする。 各部署（台本・演出、機材、道具、衣装）で作業を進める。 夏休み前後でストーリーの前半部分の通し稽古をする。 前期終了時には、全体の大まかな構成を完成させる。	公演に向けて、各役割で製作を進め、ストーリー後半通し稽古を進める。1 月以降は全体通し稽古（於公演会場）を実施する。 招待準備（パンフレット、ポスター作成案内送付、座席表作成、招待園へのプレゼント製作、壁面等飾りつけ製作依頼）を進める。2 月中旬公演本番。	
到 達 目 標	観客（子ども）の対象年齢（発達）に合わせた題材を選び、決定する。各役割でストーリーの前半に必要なものを作り終える。前半の通し稽古を終え、後半に向けて自分たちの課題を明確にする。	各役割でストーリーの後半に必要なものを完成する。後半の通し稽古、全体の通し稽古を行う中で、子どもの前に立つことを意識した目標・課題を明確にする。発表本番を迎え、子どもたちの反応を感じながら表現する楽しさを味わう。また発表を終えて、保育現場に出ることを視野に入れた自分の課題を見つける。	
成 績 評 価 方 法	授業態度、前期振り返りシート 95% 出席 5%	授業態度、後期振り返りシート 70% 演技 25% 出席 5%	

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	接遇演習	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	高月 香帆里
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 20 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	接遇に関する知識の獲得とともに、実践を踏まえて、実社会で働くためのビジネスマナーを身につけることが目的である。 「冠婚葬祭」「テーブルマナー」「敬語」「ビジネス文書」等、実社会で最低限必要な知識として知っておいた方がよい項目について講義する。保育業界でも来客対応のニーズが高まり、保育士・幼稚園教諭としてお客様にお茶出しをする機会も増えている。お茶の出し方については実践も行う。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	冠婚葬祭を始めとし、お茶の出し方・いただき方、洋食のマナー、和食のマナー、敬語やビジネス文書について学習し、社会人としてのビジネスマナーを習得する。また、お茶出しは実践を行うなど、演習を通してやり方を身に付ける。		
そ の 他			
	前 期		
授 業 の 概 要	実社会で働くためのビジネスマナーの実践を踏まえて身に付けることが目的である。 「冠婚葬祭」や「敬語」「ビジネス文書」「テーブルマナー」等、実社会で最低限の知識として知っておいた方がよい項目について講義し、お茶の出し方については実践も行う。		
到 達 目 標	冠婚葬祭を始めとし、お茶の出し方、いただき方、洋食のマナー、和食のマナー、ビジネス文書について学習し、社会人としてのビジネスマナーを習得する。また、お茶出しの実践を通して、社会に出たときの来客対応に活かす。		
成 績 評 価 方 法	期末試験（80%）、授業態度（15%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	プリント対応		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科 3 年		
科 目 名	保育教養Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期：15 時間 / 後期：15 時間	実務経験：保育士として保育所、子育て支援センター勤務の経験を活かし、より実践的な力を身につける。	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	・他科目で習得した知識や技能、実習で体験したことを基盤として、保育を総合的に関連付け保育実践に生かす力、応用力の向上を目指す。 ・社会人としての必要な知識、能力、考え方、豊かな人間性、人間力の向上を目指す。 ・関わる相手は「感情のある人間」である、円滑な関わり築き方を学ぶ。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	・講義形式の他、現場での事例を基にグループディスカッション、グループロールプレイをして実践的に学ぶ。 ・保育者としての専門性、人間性を身につけると同時に、将来像を描きながら保育への魅力が高まり意識が向上する。		
そ の 他			
	通 年		
授 業 の 概 要	・保育者としての心構えや社会人としての教養（知識、考え方）を身につける。 ・「保育は人なり」という視点を持って、実習など実践的な知識や技術を発信できる。 ・保育現場における多種業務の現状と模擬実践（職員会議、行事他）		
到 達 目 標	・他科目で習得した知識や技能、実習で体験したことを基盤として、保育を総合的に関連付け保育実践に生かす力、応用力の向上を目指す。 ・社会人としての必要な知識、能力、考え方、豊かな人間性、人間力の向上を目指す。 ・保育者としての専門性、人間性を身につけると同時に、将来像を描きながら保育への魅力が高まり意識が向上する。		
成 績 評 価 方 法	振り返りレポート 50% 保育実践 30% 課題提出 15% 出欠 5%		
テキスト・副読本	保育のデザイン		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育時事Ⅰ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	40 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	近年の保育の情勢を踏まえ、自分なりの課題を設定しレポートにまとめる。 情勢から見える課題に対して問題提起できる。		
目指す検定・資格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	・「保育実習」や「講義」を通して学んだ知識や体得した内容をもとに、実際の問題について考察及び今後の課題について明確にするとともにレポートにまとめることができる。		
そ の 他			
	通年		
授 業 の 概 要	保育とは何か、時事とは何かを学び、身近にある子どもを取り巻く問題について調べ、考察を実施する。 (児童虐待、待機児童問題、子育て支援など、日本国内における身近な内容を題材とする。)		
到 達 目 標	・「保育実習」や「講義」を通して学んだ知識や体得した内容をもとに、実際の問題について考察及び今後の課題について明確にするとともにレポートにまとめることができる。		
成 績 評 価 方 法	①講義に対する受講態度 15% ②それぞれの問題に対する考察や発表（プレゼンテーション） 50% ③最終試験（レポートの作成） 30% ④出欠席 5%		
テキスト・副読本	参考文献：それぞれ該当科目の文献を参考にまとめること。 また、講師より適宜資料の配布を実施する。 ※近々の新聞なども適宜活用すること。		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育時事Ⅱ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	40 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	最近の保育の情勢を踏まえ、自分なりの課題を設定しレポートにまとめる。 保育時事Ⅰで見た課題について、海外まで視点を広げ、子どもを取り巻く環境について理解し、提案ができるようになる。		
目指す検定・資格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	・「保育実習」や「講義」を通して学んだ知識や体得した内容をもとに、実際の問題について考察及び今後の課題について明確にするとともにレポートにまとめることができる。		
そ の 他			
	通年		
授 業 の 概 要	保育とは何か、時事とは何かを学び、身近にある子どもを取り巻く問題について調べ、考察を実施する。 （視野を海外にも向け、発達途上国での保育における問題点、日本からできる支援などについて学ぶとともに、現在の日本の保育と海外の保育について分析する。また、多文化共生の言われる昨今のニュースにも視点を置き、多国籍の保育に関する事項をまとめる。）		
到 達 目 標	・「保育実習」や「講義」を通して学んだ知識や体得した内容をもとに、実際の問題について考察及び今後の課題について明確にするとともにレポートにまとめることができる。		
成 績 評 価 方 法	①講義に対する受講態度 15% ②それぞれの問題に対する考察や発表（プレゼンテーション） 50% ③最終試験（レポートの作成） 30% ④出欠席 5%		
テキスト・副読本	参考文献：それぞれ該当科目の文献を参考にまとめること。 また、講師より適宜資料の配布を実施する。 ※近々の新聞なども適宜活用すること。		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	保育時事Ⅲ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	40 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	最近の保育の情勢を踏まえ、自分なりの課題を設定しレポートにまとめる。 また、今まで学んだ内容から見える問題点について制度など国の取り組みや行政の仕組みについて学び、実践の場で活かすことができる。		
目指す検定・資格	特になし。		
指 導 方 法 及 び 学生に期待すること	保育時事Ⅰ・Ⅱでの学びと「保育実習」や「講義」を通して学んだ知識や体得した内容をもとに、実際の問題について考察及び今後の課題について明確にするとともにレポートにまとめることができる。		
そ の 他			
	通年		
授 業 の 概 要	保育とは何か、時事とは何かを学び、身近にある子どもを取り巻く問題について調べ、考察を実施する。 （今まで学んできたものから、最も現在の保育における問題点をピックアップし、それぞれの意見を持ち寄りながら、再考する。そして、課題と支援の方法など実際にできることをプレゼンテーションする。） 社会における一般時事も踏まえ、制度や行政の仕組みを学ぶ。		
到 達 目 標	保育時事Ⅰ・Ⅱと「保育実習」や「講義」を通して学んだ知識や体得した内容をもとに、実際の問題について考察及び今後の課題について明確にするとともにレポートにまとめることができる。		
成 績 評 価 方 法	①講義に対する受講態度 10% ②それぞれの問題に対する考察や発表（プレゼンテーション） 30% ③最終試験（レポートの作成） 20% ④筆記試験 35% ⑤出欠席 5%		
テキスト・副読本	参考文献：それぞれ該当科目の文献を参考にまとめること。 また、講師より適宜資料の配布を実施する。 ※近々の新聞なども適宜活用すること。		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科3 年		
科 目 名	施設実習指導	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	伊丹 稔博
時 間 数	前期： 40 時間 / 後期：時間	実務経験：介護施設、障がい者施設にて、直接介護、サービス管理提供責任者としての経験を活かし、施設実習での心構え、記録の方法について講義を行う	
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。		
目指す検定・資格			
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	各施設における、業務内容を把握し、さらに保育士が他職種とどのような役割分担や連携が行われているのかを理解する。又、個人情報の取り扱いについて理解できる。		
そ の 他			
	前期		
授 業 の 概 要	保育実習（施設）の意義・目的を理解する。		
到 達 目 標	実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 実習日誌等の記入方法等に関わる知識を身に付ける。		
成 績 評 価 方 法	課題提出（95%）、出欠席（5%）		
テキスト・副読本	施設実習の手引き（岡山県保育士養成協議会） 施設実習ガイド 保育士として成長するための事前事後学習（駒井 美智子） 施設実習パーフェクトガイド（守 巧）		

令和6年度 シラバス

学 科 ・ 学 年	保育学科		3 年
科 目 名	ビジネス実務Ⅴ	科 目 区 分	一般科目 ・ 専門科目
開 講 期	前期 ・ 後期 ・ 通年	担 当 教 員	土居 直美
時 間 数	前期： 時間 / 後期： 35 時間		
科 目 の 目 的 と 講 義 内 容	子ども福祉に携わる者として必要な専門知識はもとより、社会人として基本的な社会常識や語彙・読解力、ビジネスマナー、コミュニケーション能力が必要となってくる。これまでビジネス実務Ⅰ・Ⅱで培ってきた以上の知識を習得することを目的とし、より実践的な授業を行う。		
目指す検定・資格	特になし		
指 導 方 法 及 び 学 生 に 期 待 す る こ と	上記の目的が達成できるように講義と共に一般常識等の確認テストや社会人になるための動機づけ、やりがいなどを具体的に学生に伝えていき、社会人として常識のある人材になれるようにする。意図やねらいを組み取り、グループワークや全体の中で発言できるようになる。		
そ の 他	就職活動に必要な情報も盛り込む。		
	後 期		
授 業 の 概 要	・ 1 年次、2 年次で学んだ一般常識、マナーの知識を活かし、さらなる上を目指す。 また、文章の読み書きに必要な語彙・読解力検定の演習を繰り返し行うことで「ことば」の力を強化し、就職活動そして社会へ活かす。社会人としての心構えを身につける。		
到 達 目 標	・ グループワークの中で自分の意見や考えを述べ、1 つの答えとして意見をまとめ発表できる。 ・ 社会人として必要なマナー・礼儀を身に付け、就職活動や実習に活かす。 ・ 文章を読み解き、自分の意見を述べることができる。		
成 績 評 価 方 法	・ 筆記試験 70% ・ 提出物 25% ・ 出欠 5%		
テキスト・副読本	社会人常識マナー検定 2・3 級 これだけは知っておきたい保育のマナーと言葉 第二版 わかば社 これだけは知っておきたい保育の基本養護 第二版 わかば社		